

鳥取県立図書館の目指す図書館像に対する委員の中間評価

【第1の柱】仕事とくらしに役立つ図書館を実現します。

自己評価 A

	評価	コメント
A 委員	A	高校生向け起業講座など、社会や教育に対する貢献が具体的だと思います。多様な人が利用しやすいように館内表示改善を行い、誰もが安心して利用できる取り組みが先進的に進められていると感じます。
B 委員	A	・多方面への取り組みがなされており、その中でもビジネス支援や読書バリアフリー関連の取り組みは特筆に値すると考えます。 ・今後の高齢者や子育て応援（託児含む）のサービスの全県への一層の広がりを期待します。
C 委員	A	資料相談や医療・健康分野の利用が伸び、生活に役立つ支援が進んでいる。ビジネス相談には課題もあるようなので今後の充実に期待したい。
D 委員	A	仕事とくらしに役立つ図書館としてのサービスは定着している。今後もサービスの充実にすすめて欲しい。
E 委員	B	ビジネス支援、医療・健康情報、子育て・法情報など、県民の仕事と日常生活に直結する分野で着実なサービス展開が図られている。関係機関との連携による相談支援や資料提供体制も概ね順調であり、利用実績も安定している。一方で、利用層のさらなる拡大やオンライン活用の一層の充実など、今後の伸びしろも見込まれることから、総合的に見て順調に進捗していると評価する。
F 委員	A	資料貸出、相談件数ともに目標を達成（順調に推移）しており、仕事や暮らしの情報の拠点としての機能を果たしている。
G 委員	A	ビジネス支援サービスに継続的に取り組み、他団体とも協力して勉強会を行ったり、特に未来を担う高校生への展開にも取り組んでいる。医療・健康・困りごと等への情報提供も適切に実施している。
H 委員	A	読書バリアフリー推進に関して、具体的な推進計画を策定されただけでなく、様々な機会を捉えて、出かけての普及に努めておられる点や個々のニーズに対応出来る図書を整備されている点を高く評価させていただきます。
I 委員	A	資料相談件数の目標も3年前倒しで達成しており、ビジネス支援の成果もめざましい。医療・健康に関する関心も高いため、利用者のニーズに合致した取り組みをこの先も継続していただきたい。投資関連の書籍への需要も高いと想像します。
J 委員	A	・読書バリアフリー推進・普及が出来ている。 ・託児で来ぶらりなど、子育て支援との取組も出来ている。

【第2の柱】生涯を通じての人の成長・学びを支える図書館を実現します。

自己評価 B

	評価	コメント
A 委員	B	学校司書のICTスキルアップ支援は、デジタル化に対応した有効な取り組みです。コロナ禍を経て、貸出冊数を増加していくことやデジタルとアナログを融合させた読書アプローチが求められていると思います。
B 委員	B	・各計画やビジョンを具現化する各種事業に精力的に取り組まれていると感じます。 ・これらの取り組みが今後、点から線へ、線から面へと展開されるよう引き続き取り組んでいただきたいです。

	評価	コメント
C 委員	B	読書支援や情報共有の取組みが広がり、学びの場として機能している。学校との連携には差があるようなので、継続した取組が望まれる。
D 委員	B	絵本や児童書について学べる研修会を継続して欲しい。
E 委員	B	子ども読書推進、学校図書館支援、高齢者や障がいのある方へのサービスなど、多様な世代に対応した取組が継続的に実施されている。研修や講座の開催、資料整備も計画的に進められており、生涯学習拠点としての役割は着実に果たされている。今後はデジタル資料の活用や学び直し支援のさらなる強化により、一層の発展が期待される。
F 委員	B	・高等学校、特別支援学校における学校図書館活用年間計画の普及が進んでいない。 ・情報リテラシー向上の支援強化について、生涯学習（一般県民向け）の取組みの詳細が不明だが、サービス指標に係る図書館数は目標値に達していないためBとした。
G 委員	B	学校図書館への支援や、生涯学習につながる取り組みや発信を行っている。数値目標については、自館でコントロールしづらいものが挙げられており、達成がしづらい状況にある。
H 委員	B	サードブレイスとしての図書館という視点はとても新鮮と思います。なかなか困難な課題だとは思いますが、是非継続して取り組んでいただきたいと思っています。
I 委員	B	子どもの頃から図書館に通った経験がないと、大人になってから図書館利用に結びつかないように思います。学校での探究型学習に資する郷土資料の上手な探し方などを児童・生徒向けに教え、学校の先生向けにも図書館活用の講習を開くなどして、子どもが図書館を身近に感じるような施策を強化拡充していただきたい。
J 委員	B	小・中・高・特別支援学校と、学びの場を通じて図書館の取組が子ども達の成長に役立っているから。

【第3の柱】鳥取県の文化を育み世界に発信する図書館を実現します。

自己評価 B

	評価	コメント
A 委員	A	郷土資料のデジタル化が進み、郷土の偉人や文化を教育活動に活用しやすい環境が整っていると思います。子どもたちの探究学習や郷土愛を育む基盤として大きな役割を果たしていると感じます。
B 委員	B	・地域の文化や資源を未来へと繋いでいくための地道な取組みが丁寧に続けられていると感じます。 ・新しい技術や方法も取り入れながら、地域の資源に光を当てる取組みを今後も継続していかれることを期待します。
C 委員	B	郷土資料の収集や活用が進み、文化の継承に寄与している。郷土資料の長期保管を望むとともに、情報発信の工夫にも期待したい。
D 委員	B	日本で働く外国の方が町内でも増えてきている。外国語図書の所蔵の充実を町村立図書館でも考えなければならないと思うが、限りがある。県立図書館の支援の充実を希望したい。古文書の研修会は職員のスキルアップにつながった。
E 委員	B	郷土資料の収集・整理・活用が継続的に行われ、展示や情報発信を通じて県民の郷土理解の促進に寄与している。また、関係機関との連携による文化情報の発信も一定の成果を上げている。今後はデジタルアーカイブの充実や多言語での発信強化により、国内外への発信力向上が望まれる。

	評価	コメント
F 委員	D	・郷土資料の保存、デジタル化と普及啓発をより一層推進する必要がある。 ・国際交流ライブラリー資料の貸出数は目標達成の想定内容が毎年1.2%増と設定されているが、この設定では目標値に達しないためDとした。
G 委員	B	郷土資料は位置づけが様々であり、収集や活用は難しい状況がある。地元書店や地元出版社との連携により地域文化の振興に努めている。一方環日本海諸国等の交流については国際情勢の影響もあり、対象や人数が制限される状況がある。
H 委員	B	地域文化、文字・活字文化振興のために、近年経営環境が厳しくなっている出版界や書店への支援を引き続き図っていただきたい。
I 委員	B	郷土資料の収集に積極的に取り組まれており、地元紙のマイクロフィルム化など歴史を後世に伝えるための地道な作業も続けておられ、ありがたく思います。鳥取県の情報へのアクセス数が大幅に減っているのがやや気になります。
J 委員	B	郷土資料が図書館にあること、また、素晴らしい郷土出身者がおられること、おられたことについて知らない人が多く、イベントや講演会などで広めて行けると良い。

【第4の柱】知の拠点としての図書館を実現します。

自己評価 B

	評価	コメント
A 委員	A	電子書籍の利用増は、デジタル化が進む現代社会において、図書館の利便性を高めるきっかけになっていると思います。県内を網羅する検索システムの整備は、どの市町村でも有効に活用できる環境になっています。
B 委員	B	・関係者と連携を図りながら、新しい時代に対応した知の拠点づくりに取り組まれていることは大きく評価されることと考えます。 ・今後も人材育成やサービスの広がりを念頭に、新たな価値の創出に邁進されることを期待します。
C 委員	A	検索や電子書籍などの利用が進み、情報環境が充実してきている。一方で、デジタル化をすでに見直す動きもあり、紙媒体も大切に資料提供を望む。
D 委員	B	県域での資料のデジタル化について継続してすすめて欲しい。相互貸借を利用されている方でも、市町村立図書館の利用者カードを持っていれば、県立図書館の本を直接予約できること知っておられない方も多い。市町村立図書館と共催で実施するデジタル活用講座はとて素晴らしいと思った
E 委員	A	専門的資料の整備、レファレンス機能の充実、職員の資質向上に向けた取組が高い水準で実施されている。市町村立図書館等との連携・支援体制も強化され、県内図書館ネットワークの中核としての役割を十分に果たしている。サービス指標の達成状況からも、目標を上回る成果が認められ、高く評価できる。
F 委員	A	デジタル化の推進により新たな利用につながっている。アクセス件数、利用件数等は目標値を超え、知の拠点としての役割を果たしている。
G 委員	A	横断検索サービスや電子書籍サービスの利用が増え、また郷土資料のデジタル化に取り組むなど、新たな形での知の拠点化に取り組んでいる。図書館職員のレベルアップに寄与する研修や支援を行っている。
H 委員	B	図書館利用者拡大、読書バリアフリー推進のためにも電子書籍の導入を更に進めていただきたい。併せてよりアクセシブルな電子書籍を導入いただきたい。
I 委員	A	サービス指標が全てA評価で素晴らしいと思います。生成AIが急速に市民権を得て仕事の在り方が変わっていく中で、特にデジタルに不慣れな高齢者が取り残されないよう、AIについての基本的な知識・注意点を伝える講習の開催などを期待しています。

	評価	コメント
J 委員	A	電子書籍の利用件数も増えているところ。

【4つのキーワード 1】 ネットワーク

自己評価 A

	評価	コメント
A 委員	A	学校図書館支援センターとしての機能が定着しており、県内の各教育機関をつなぐハブとしての役割を果たしています。市町村との連携や全県的な貸出体制も確立していると思います。
B 委員	A	・全国に誇れる連携と物流ネットワークの維持・活用が継続されていることは、特筆に値することと考えます。 ・コスト削減は大事ですが、一方で人件費や輸送費等の高騰はやむを得ないことでもあると考えます。
C 委員	A	学校や地域、関係機関との連携が進み、つながりを生かした取組みの広がりが感じられる。
D 委員	B	鳥取県内図書館のネットワーク、鳥取県立図書館の物流システムはとても充実している。今後も継続して欲しい。
E 委員	B	連携体制は概ね順調に機能しており、相互貸借や情報共有の取組も定着している。今後はオンライン活用による連携強化を図るとともに、災害時の協力体制構築、デジタル広報や技術人材育成の推進、多様化する県民ニーズに対応した研修・情報共有の継続に取り組むことで、ネットワークのさらなる充実が期待される。
F 委員	C	市町村立図書館や学校図書館への協力貸出が伸び悩んでいる。
G 委員	B	市町村立図書館、学校図書館との連携や支援を行い、専用の物流システムにより資料搬送を行っている。 数値目標については、自館でコントロールしづらいものが挙げられており、達成がしづらい状況にある。
H 委員	A	県立図書館と各市町村図書館との連携は素晴らしいと思っていますので、是非維持・発展をしていただきたい。
I 委員	B	協力貸出の冊数が減っており、県民への情報発信を強化する必要性を感じています。人件費や輸送コストの増大により、この先、搬送車の便数を減らさざるを得なくなるのではと心配しています。効率的な配送ルートを検討などにより、コストを抑える努力を重ね、サービスを維持していただきたい。
J 委員	B	協力貸出など、協力体制は以前よりできてきているところ。

【4つのキーワード 2】 専門性

自己評価 A

	評価	コメント
A 委員	B	司書のスキルアップ研修が継続的に実施され、学校現場において探究学習の質の向上につながっています。今後は、高度化する情報社会への対応と、AI活用への専門性が求められると思います。

	評価	コメント
B 委員	A	・専門性を発揮するために専門機関との連携や研修の充実に取り組まれており素晴らしいと感じます。 ・今後も新たな技術や社会状況への対応とそのための人材育成を継続していかれることが重要と考えます。
C 委員	A	職員の知識や経験が生かされ、利用者の多様なニーズに応える、質の高い支援が行われている。
D 委員	A	司書の専門性を維持していくためには、研修に参加しスキルアップを図ることが必須だと考えている。魅力ある研修テーマと参加しやすい環境づくり（オンライン参加等）を継続して欲しい。
E 委員	B	専門分野に対応した資料整備やレファレンス対応力の向上、職員研修の実施など、専門性向上に向けた取組は着実に進められている。高度化・多様化する利用者ニーズに対応するため、継続的な研鑽と体制強化が求められる。
F 委員	D	認定司書の資格を取得した職員数の減
G 委員	B	所蔵や電子書籍の充実を図ると共に、レファレンス等専門性の向上を図った。ビジネス支援の相談場所としての認知も増えている。進化する情報化への取り組みが進んでいない。
H 委員	B	市町村図書館や学校図書館職員等の専門や関係する分野の研修に引き続き力を入れていただきたい。
I 委員	A	さまざまな講習で職員の皆さんのスキルアップに取り組んでおられます。人材育成は一朝一夕にいかず、時間がかかります。各分野に深く根を下ろした専門家を育成した上で、さらに次の世代に知識を共有する流れを意識していただければと思います。
J 委員	B	研修などを通じて、専門性が高まってきている。

【4つのキーワード 3】発信力

自己評価 A

	評価	コメント
A 委員	A	ホームページをはじめ、デジタルを活用した方法での広報が行われています。
B 委員	A	・様々な方策をとりながら積極的に発信に取り組まれていると感じます。 ・一般の方からの声をもっと活用するような取り組みがもっとできるとより素晴らしいと考えます。
C 委員	A	展示や広報などを通して図書館の活動がわかりやすく伝えられ、発信の工夫がみられる。
D 委員	A	図書館を利用してもらうために県内図書館関連施設と連携した「図書館へ行こう！キャンペーン」のような事業はとてもいいと思う。
E 委員	B	ホームページや展示、各種広報媒体を通じた情報発信は安定的に行われている。一定の成果は見られるものの、SNSや動画配信等の活用を含め、より戦略的かつ効果的な広報展開により、潜在的利用者へのアプローチ強化が期待される。
F 委員	B	(特にコメントなし)

	評価	コメント
G 委員	A	図書館利用に係るキャンペーンを実施したり、様々な機会に出前図書館や出前講座を実施した。 書面やInstagramを用いた情報発信により、図書館に目を向けてもらう取り組みを行った。
H 委員	B	まだ図書館について本の貸出を行う所というイメージを持っている方は多いと思うので、引き続き様々な方法で図書館の魅力発信を行っていただきたい。
I 委員	A	ガイナレのホームゲームなどさまざまな場に出向いて出前図書館を開催するのは有効的な取り組みだと思います。図書館にあまり足が向かなかった層と接触を持つと「こちらから出向く、姿勢には非常に好感が持てます。報道機関への情報発信を続け、いかに多くのメディアに取り上げてもらえるかも重要と考えます。
J 委員	B	SNSなど、いろいろな方面で広報が出来ている。

【4つのキーワード 4】保存と公開

自己評価 B

	評価	コメント
A 委員	B	課題である書庫問題についても、検討に着手されており、将来を見据えた安定的な運営がなされていると感じます。
B 委員	B	・保存と公開に係る様々な試みに積極的に取り組まれていることは素晴らしいと考えます。 ・防災や書庫問題への対応は、もっと重点として取り組まれて然るべきことと感じます。
C 委員	A	貴重な資料の保存と公開が進められ、文化の継承に向けた取組みが進んでいる。
D 委員	B	資料の修繕や保存についての専門的な知識や技術のスキルを持つ職員がいることは図書館にとって、とても大切なことだと思う。市町村図書館向けの研修会も継続して欲しい。
E 委員	B	郷土資料や貴重資料の保存・整理は計画的に進められており、展示やデジタル公開など公開面での取組も着実である。今後は資料のデジタル化の一層の推進と、利用しやすい公開方法の工夫により、保存と活用の両立がさらに図られることを期待する。
F 委員	C	利用（アクセス）数が大きく伸びている一方とりデジコレクションへの参加自治体・機関数は目標の35%にとどまっている。
G 委員	B	郷土資料のデジタル化に取り組んでいる。 書庫問題や災害対策についての取り組みは情報収集や検討を始めたところ。
H 委員	A	地味な分野かもしれませんが、収集・保存は多分図書館等公的な専門機関でなければ継続できないと思いますので、引き続きデジタル化や可能な範囲での公開・利用を促進していただきたい。
I 委員	B	水害に備え、地下書庫の郷土資料の移動の検討を始められたと聞き、安心しました。できるだけ早く方針を定め、動き出していただければと思います。
J 委員	B	鳥取の大切な資料をデジタル化し、いつでも見えるようにされている所が良い。